

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 本研究科では人材の養成・教育研究上の目的を次のように設定しており、その内容は適切である。「経営学専攻博士前期課程は、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に則った「理論と実践」を教育理念として、経営分野で指導的役割を果たす研究者や高度専門職業人を養成することを人材養成の目的とする。そのための教育研究上の目的は、学部で培った「理論と実践」教育を発展させて、企業経営における企画立案・業務遂行・内部統制といったPLAN、DO、SEEの高度な専門教育を行い、個々の学生の能力開発およびキャリアアップ、キャリア転換を支援することとする。経営学専攻博士後期課程は、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に則った「理論と実践」を教育理念として、博士前期課程での研究成果を基礎として、経営分野で一層高度の知識をもとに活躍できる研究者や高度専門職業人を養成することを人材養成の目的とする。そのための教育研究上の目的は、博士前期課程で培った「理論と実践」教育をさらに発展させて、グローバル社会における企業環境の変化に対応してデータサイエンス技術を用いた分析能力とその実践への活用能力の習得を支援することとする。」(経研1-1) (2) 2018(平成30)年度に、大学の理念・目的を踏まえて本研究科の目的の見直しを行い関連性を確認した上で、2019(平成31)年4月、「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」として設定した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【1-1経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」人材の養成・教育研究上の目的 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose2.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 本研究科の目的は、「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」に明示されている(経研1-1)。 (2) 愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等に記載するとともに、本学および本研究科独自のウェブサイトに掲載することにより、教職員、学生、社会に対して周知・公表している(経研1-1)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【1-1経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」人材の養成・教育研究上の目的 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose2.pdf)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 修士課程の学生については、指導教員が中心になって学生毎に研究指導計画を作成し、入学から修了まで計画的に教育研究指導を行うことにより、教育活動のPDCAを回している。学生は指導教員と副指導教員2名の指導のもと、研究指導計画に基づいて研究を進め、研究成果を公開の中間報告会(最低2回)で報告することが義務づけられている(経研2-1)。中間報告会では、学生は研究内容について報告をして、指導教員、副指導教員、報告会への参加者からの質問を受けて回答する。中間報告会での報告内容をもとに、3名の教員は評価および指摘事項を評価表にまとめて、経営学研究科委員会において学生の研究の進捗について報告するのとともに議論を行う。評価表は学生にも渡され、学生は、指摘事項を踏まえて、継続的に行われる指導教員と副指導教員からの指導を受けて、修士論文を執筆する。最終的に執筆された修士論文は、3名の教員を審査委員とした口頭試問により審査され、ルーブリックを用いて評価される。経営学研究科委員会は、提出されたルーブリックを用いて学位授与の水準に達しているかどうかを審議し、評価する。経営学研究科では、自己点検・自己評価委員会を開催して、上記PDCAを中心とした教育課程の内容・方法等の改善・向上に向けた検討を行っている(経研2-2、2-3)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【2-1経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」愛知学院大学大学院研究指導計画書、27-28頁 (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				
【2-3経研】第1回大学院経営学研究科自己点検・評価委員会 議事録(2023年5月)				
【2-4経研】第2回大学院経営学研究科自己点検・評価委員会 議事録(2023年10月)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1)経営学研究科では、同研究科の教員で構成される組織である経営学研究科委員会において学位授与方針であるDP(ディプロマ・ポリシー)を適切に定め、大学ホームページ及び大学院要項にて公表している(経研4-1、経研4-2)。これに基づき、博士前期課程(修士学位論文)および博士後期課程(博士学位論文)のそれぞれについての学位論文審査基準を設け、これを大学院要項にて公表している(経研4-3)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【4-1経研】経営学研究科ホームページ(https://keiei.agu.ac.jp/graduate-school/)				
【4-2経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) 6&9頁. (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				
【4-3経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」愛知学院大学大学院学位論文審査基準, 40頁. (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)経営学研究科委員会が学位授与方針(DP)に掲げた目標を達成するために、教育課程の体系や教育内容を審議し、これに基づき、教育課程を構成する授業科目区分や授業形態等を設定し、大学院要項及び大学ホームページで公表している(経研4-1、経研4-3、経研4-4)。 (2)経営学研究科委員会において定めた学位授与方針に掲げた目標を達成するために、教育課程の編成・実施方針を定めている(経研4-1、経研4-3、経研4-4、経研4-5)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【4-1経研】経営学研究科ホームページ(https://keiei.agu.ac.jp/graduate-school/)				
【4-3経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」愛知学院大学大学院学位論文審査基準, 40頁。 (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				
【4-4経研】「授業科目・担当教員・履修方法」83-85頁(https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-j.pdf)				
【4-5経研】愛知学院大学学位規則				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科委員会では、毎年4月に開講科目および担当者を決める会議を開催している。この会議において、教育課程の編成・実施方針(CP)が担保できる教育課程になるように開講科目および担当者を選定している(経研4-1、経研4-3、経研4-4)。				
(2) 経営学研究科委員会において、授業科目・担当教員・履修方法について毎年審議している(経研4-6)。博士前期課程では、基礎科目、応用科目、経営実践関連科目に分類し、順次性や体系性に配慮するとともに、専門性を担保するため、専修科目を設定している。博士後期課程においては、より高度な専門性を担保するため研究指導を設定するとともに、経営学特論や文献講読のような選択科目を設定している(経研4-4)。				
(3) 経営学研究科では個々の授業科目の内容及び方法が教育課程の編成・実施方針を踏まえられているのかを確認するために、第三者によるシラバスチェックを実施している(経研4-7)。				
(4) 経営学研究科では、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育になるように、博士前期課程においては特修科目の中から専修科目1科目を選択し、その16単位(講義4・演習8・文献4)を必修することになっている。また、修士論文は、専修科目によって作成することになっている。博士後期課程においては特修科目の中から専修科目1科目を選定し、その研究指導12単位を必修することになっている。また、博士論文は専修科目によって作成することになっている(経研4-4)。				
(5) 経営学研究科では、税理士・会計士の養成、経営者育成、留学生教育、研究者・教員の育成を行うための教育を適切に実施している(経研4-8、経研4-9)。たとえば、博士前期課程において、会計学を特修科目として専攻し、修士論文を執筆することによって、修士の学位を得ると、税理士科目の中の会計関連科目1科目が免除される。教職課程・教育実習を修了することにより、高等学校教諭専修免許状を取得することができる(経研4-10)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【4-1経研】経営学研究科ホームページ(https://keiei.agu.ac.jp/graduate-school/)				
【4-3経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」愛知学院大学大学院学位論文審査基準, 40頁. (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				
【4-4経研】「授業科目・担当教員・履修方法」83-85頁(https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-j.pdf)				
【4-6経研】経営学研究科開講科目及び担当者(https://www.agu.ac.jp/graduate/management/teacher.html)				
【4-7経研】シラバスの第三者チェック体制				
【4-8経研】経営学研究科ホームページ(https://www.agu.ac.jp/graduate/management/)				
【4-9経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」カリキュラム・ポリシー, 14&18頁. (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				
【4-10経研】「学生生活」129頁(https://www.agu.ac.jp/graduate/life/)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置（授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等）を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 （教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体（会議名・誰が）」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科においては、博士前期課程においては修士論文の中間報告会、博士後期課程においては事前報告会を実施することにより、授業時間外に学習が必要となるような実質的な制度を設けている（経研4-1）。				
(2) 各科目のシラバスには、科目のねらい、到達目標、授業の内容・計画、評価方法・基準、授業外の学修等が明示されている（経研4-11）。経営学研究科では第三者によるシラバスチェックを行うとともに、院生へのアンケートを実施し、授業内容とシラバスとの整合性が担保されるようにしている（経研4-7、経研4-12）。				
(3) 経営学研究科では、少人数授業による授業を実施しており、特に博士後期課程では教員と学生がマンツーマンで教育・研究に没頭できるような環境を整えている（経研4-8）。				
(4) 経営学研究科では研究指導の内容及び方法、年間スケジュールについて公開するとともに、それに基づく研究指導を実施している（経研4-13）				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【4-1経研】経営学研究科ホームページ（ https://keiei.agu.ac.jp/graduate-school/ ）				
【4-11経研】シラバス（ https://wcs.agu.ac.jp/campus/tab.do?buttonName=changeTab&menulv1=0000000005 ）				
【4-7経研】シラバスの第三者チェック体制				
【4-12経研】院生へのアンケート				
【4-8経研】経営学研究科ホームページ（ https://www.agu.ac.jp/graduate/management/ ）				
【4-13経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」愛知学院大学大学院研究指導計画書、27-28頁）（ https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf ）				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	A
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など 第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科では、単位制度の趣旨に基づき、適切に単位認定ができるよう講義については、1コマ(2時間)の授業を半期15回、通年で30回実施し、学生は1コマ(2時間)の授業当たり4時間の予習復習による自主的学習をするように指導している(経研4-11)。				
(2) 成績評価の客観性、厳格性を担保するため、シラバスに成績の評価方法(基準等)を明示するとともに、第3者によるシラバスチェックを行っている(経研4-7、経研4-11)。成績評価に関する質問がある場合には、各担当教員が学生に対して評価基準をもとに説明することとなっている。				
(3) 経営学研究科では修了要件を大学院学則に明示している(経研4-14、経研4-15)。				
(4) 学位認定と学位授与の方針(DP)を掲げ明示・公表するとともに、学位論文審査基準を定め、明示している(経研4-3)。				
(5) 経営学研究科では、中間報告会や事前報告会を実施することで、主指導教員だけでなく、副指導教員も指導を行うことで、学位審査及び修了認定の客観性や厳格性を確保するようにしている(経研4-1)。 学位授与に係る責任体制及び手続については、大学院要項に明示し、大学ホームページで公開している(経研4-15)。				
(6) 経営学研究科では、適切に学位授与を行うために、主査及び副査が審査した結果をルーブリックをもとにまとめ、経営学研究科委員会に提出・報告し、審議している(経研4-16)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【4-11経研】シラバス(https://wcs.agu.ac.jp/campus/tab.do?buttonName=changeTab&menulv1=0000000005)				
【4-7経研】シラバスの第三者チェック体制				
【4-14経研】愛知学院大学大学院学則第4章				
【4-15経研】愛知学院大学大学院学則第5章				
【4-1経研】経営学研究科ホームページ(https://keiei.agu.ac.jp/graduate-school/)				
【4-3経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」愛知学院大学大学院学位論文審査基準, 40頁。 (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				
【4-16経研】第8回経営学研究科委員会議事録(修了判定:2024年2月16日)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 (特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科では、本研究科の学位課程の特性に沿って、学位授与方針に掲げた到達目標に応じた学習成果を複数の教員が多面的に評価している(経研4-1)。学生は、課程修了までに2回の中間報告会での報告と修士論文に関する口頭試問が課されている。各中間報告会では、学生の報告に対して指導教員と2名の副指導教員による評価と指摘事項をまとめた評価表が作成され、学生指導に用いられる。口頭試問では、中間報告会での指摘事項に関する改善状況等の確認も行われ、ルーブリックを用いて、学生の学習成果についての評価を行う。				
(2) 経営学研究科では、副指導教員を複数人割り当て、複数の教員が多面的に評価することで、学習成果を把握及び評価している。また、2019年度より、修士論文の修了判定において、ルーブリックを活用し、学生の学習成果の把握及び評価をできるように変更した。2023年度はルーブリックでの評価を踏まえ、修士論文の評価を実施した(経研4-16)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【4-1経研】経営学研究科ホームページ(https://keiei.agu.ac.jp/graduate-school/)				
【4-16経研】第8回経営学研究科委員会議事録(修了判定:2024年2月16日)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科では経営学研究科自己点検・自己評価委員会を設置し、適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っている(経研4-17、経研4-18)。				
(2) 経営学研究科自己点検・自己評価委員会において点検・評価した結果に基づき、各教員が講義や演習、文献などの授業や指導の中で改善や向上を図るとともに、学習成果の測定するための指標についての整備を進めている(経研4-18)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【4-17経研】第1回大学院経営学研究科自己点検・評価委員会 議事録(2023年5月)				
【4-18経研】第2回大学院経営学研究科自己点検・評価委員会 議事録(2023年10月)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科は、博士前期課程(修士課程)および博士後期課程(博士課程)ともに、経営分野の高度専門職業人または研究者に求められる能力の評価に基づいた学位授与方針(DP)、ならびに学位授与方針に示した各種能力を養成するための教育課程編成・実施の方針(CP)を設定し、これらに定める教育を受けるにふさわしい人物の要件を、入学者受け入れの方針(AP)として大学ホームページ及び学生募集要項に掲載し、公表している。(経研5-1, 経研5-2, 経研5-3)				
(2) 経営学研究科は入学希望者に対し、入学者受入れの方針(AP)の中で、入学前の段階で経営学または関連諸領域の基礎的な知識を十分修得していることを求めている。また、その修得状況は、入学試験において実施される外国語試験、専修科目に関する論文試験、ならびに面接試験を通じて判定している(5-3経研)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【5-1経研】「愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等」学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー). (https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf)				
【5-2経研】大学ホームページ(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				
【5-3経研】大学院学生募集要項				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

経営学研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科では、入学者受け入れの方針(AP)をもとに、募集要項および入学者選抜基準・方法について研究科委員会における審議を通じて、適切な選抜制度を設定している。入学者受け入れの方針においては国籍を問わず広く学生を募集する姿勢を示しているが(5-2経研)、留学生入試制度を設けることでその姿勢を選抜制度に反映させている(5-3経研)。また、経営実践の最先端での活躍を願う人物を受け入れるという方針(5-2経研)を社会人入試制度として体现させている(5-3経研)。				
(3) 大学院委員会において行われる合格基準の確認・見直しに基づき、入学試験実施後に研究科委員会が開催され、同委員会における審議・決議を経て大学院委員会において入学者を決定する体制を採っている。				
(4) 研究科委員会および大学院委員会における審議を経ることにより、より多くの教員が選抜に関わることで入学試験の透明性を確保している。外国語試験および面接(口述)試験の実施にあたっては、複数の教員が担当することにより、適正かつ公正な試験結果が導かれるように配慮している。				
(5) 傷病等により不自由を有する受験生から申し出があった際には、状況等を確認の上、受験生の希望する研究科との協議調整を行うことで、公平な対応にあたることとしている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【5-2経研】大学ホームページ(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				
【5-3経研】大学院学生募集要項				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

経営学研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	B
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 経営学研究科における2023年5月1日時点での収容定員に対する在籍学生比率は、博士前期課程(修士課程)20%、博士後期課程(博士課程)0%となっており、定員を満たしていない(5-4経研)。経営学研究科においては、2023年度より定員の削減を行った。また、すでに税法系で大学院において研究を行い、一定程度の会計の知識を有しているものを対象とした特別入試制度も新設した。そのほか、学部との連携強化のための研究科と学部の間での単位互換や、奨学金の拡充も実施することで、定員充足に向けての継続的な努力を続けている(経研5-5)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【5-4経研】収容定員および学生数				
【5-5経研】特別入試、飛び級、早期履修				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 本学が毎年5月1日時点での収容定員および学生数を公表しており(5-4経研)、これに基づき研究科委員会において適宜点検・評価を行っている。2023年度には、FD委員会にて、この検討が行われた(5-6経研)。				
(2) 研究科委員会において適宜改善・向上のための対策を議論している。FD委員会において、収容定員充足率が高くない点について議論が行われ、その対策として定員数の見直しに加えて、大学院との飛び級制度、学部との連携強化のもと大学院科目の早期履修制度、学部4年生向けの大学院入学試験に関する周知等を行っている(経研5-5)。				
【根拠資料名】上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【5-4経研】収容定員および学生数				
【5-6経研】2023年度 第1回FD研究科委員会議事録				
【5-5経研】特別入試、飛び級、早期履修				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
基準5-③	収容定員充足率の向上が課題である。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既にも実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
基準5-③	特別入試の新設、定員数の見直し、および学部との連携強化のもと、適切な定員数の設定と、志願者の増加策を検討している（経研5-7）。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
【5-5経研】特別入試、飛び級、早期履修	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科の教員組織の編制方針を策定している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【6-3経研】経営学研究科の教員編制方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 本研究科の博士前期課程では、専任教員12名により講義ならびに研究指導を行っている。さらに、非常勤講師2名により体制を強化している(資料6-1、6-2)。博士後期課程の専任教員数は10名で、設置基準を充足している。				
(2) 今後の専任教授の退職を見越し、採用人事について学部と連携し、合同採用人事委員会を開催し、大学院担当として適切な人材を採用できるようにしている。また、学部の准教授で一定年度の年数を経た教員の昇格人事を積極的に行う予定である。				
(3) 愛知学院大学大学院学則第8章教育組織及び運営組織の定めに従い教員組織を編制している(資料6-2)。本研究科において教育上主要と認められる科目については専任教授が担当している。また教員が保有する博士の学位について明示している。教員の担当授業は負担が偏らないよう配置している。年齢構成は40代から60代までバランスよく配置されている。一方で、専任教員に外国人数員、女性教員がいないのが現状である。(資料6-1)経営学研究科の教員組織の編制に関する方針を2019年度に策定した。(資料6-3)				
(4)				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				

根拠資料名

【6-1経研】「授業科目・担当教員・履修方法」83-85頁 (<https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-j.pdf>)【6-2経研】経営学研究科 教員紹介 (<http://www.agu.ac.jp/graduate/management/teacher.html>)

【6-3経研】経営学研究科の教員編制方針

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 教員の募集、採用、昇任等については、教員資格基準内規についての確認事項(資料6-4)および大学院経営学研究科昇格規程(資料6-5)、大学院経営学研究科昇格に関する基準表(資料6-6)が整備されている。

(2) 規程に基づき募集、採用、昇任が行われている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

【6-4経研】愛知学院大学大学院 教員資格基準内規についての確認事項

【6-5経研】大学院経営学研究科 昇格規程

【6-6経研】愛知学院大学大学院経営学研究科 昇格に関する基準表

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 本研究科の教員によりFD委員会を組織し、FD委員長を中心にFD委員が協力してFD活動を推進している。(資料6-7)

(2) FD活動として教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、それをFD委員会や研究科委員会で活用し現状の問題について共有し改善を検討している(資料6-8)。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

【6-7経研】経営学研究科各種委員一覧(2023年度)

【6-8経研】「研究業績登録」ウェブサイト<https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300>

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)「教員の諸活動における自己点検・自己評価に関する実施要領」に基づき、毎年、教育・研究業績を報告し、愛知学院大学教育情報のウェブサイトで公開している。また、経営学研究科委員会等にて、教員組織の適切性について点検・評価を行っている。(資料6-9)				
(2) 毎年の教育・研究業績について教員は自己評価するとともに各自改善に取り組み、結果を報告している。また、点検・評価の結果に基づき、博士前期課程および博士後期課程の担当者を充実すべく、昇格人事に取り組んでいる。(資料6-9)				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【6-9経研】「教員業績」及び「教員の諸活動における自己点検・自己評価」				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
②(2)	各種専門分野の教員が主査と2名の副査の3名体制による指導による学位論文の品質向上。(資料6-10)
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
【6-10経研】2023年度博士前期課程2年生に関する主査・副査一覧	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学研究科は国際交流センターと教務課と連携し、魯東大学との姉妹提携に基づく交換留学を実施している(9-1経研)。2020年3月の修了生を最後に新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、東大学との姉妹提携に基づく学生受け入れが行われていないが、今後、コロナが収束したことに伴って、再度交流を深める予定である。また、中部地区の6大学院との単位互換協議会に参加し、教育に関する連携を進めている(9-2経研)。また、研究科と大学の社会連携センター、国際交流センターと連携し社会連携・社会貢献に関する取り組みが実施されている(9-3経研)。				
(2) 社会連携や社会貢献を推進するための議論を積み重ねながら、各教員が毎年、社会貢献に関する目標・計画を検討する際に、上述のプロセスを通じて得られた前年の社会連携・社会貢献に関する自己点検・評価結果を反映させている(9-3経研)。EY税理士法人との連携による大学院生の就職に向けた説明会を開催した(9-4経研)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【9-1経研】愛知学院大学と魯東大学との姉妹校締結に関する協定				
【9-2経研】単位互換協議会資料				
【9-3経研】「研究・産学官連携」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/organ/				
【9-4経研】2023年度 第5回経営学研究科委員会議事録(2023年12月)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 魯東大学との姉妹提携について、出入国管理局の基準および教育実績(GPA・修了率)の観点から点検している(9-1経研)。				
(2) 魯東大学との姉妹提携は5年に一度、見直しを行っている。この見直しにおいて、交換留学時に学生に課せられる要件、適切な人数などが、出入国管理局の基準、過去の受け入れ実績等に照らし合わせ、改善されている。また、各教員は大学の研究業績データベースに社会連携・社会貢献に関する毎年の活動記録を入力するとともに、そのアンケートに回答する形で社会連携・社会貢献活動に関する自己点検・自己評価を実施している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
【9-1経研】愛知学院大学と魯東大学との姉妹校締結に関する協定				
【9-2経研】「研究業績登録」ウェブサイト https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。

自己評価

A